

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493200552	事業の開始年月日	令和2年4月1日
		指定年月日	令和2年4月1日
法人名	株式会社アイシマ		
事業所名	グループホーム あしたば		
所在地	(〒241-0823) 横浜市旭区善部町119-13		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年12月27日	評価結果 市町村受理日	令和5年4月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様・ご家族様・職員一人一人の思いを大切にきずなを深め我が家と思える環境を提供致します。ひなたのように暖かくなごめるホームです。グループホームの名称である「あしたば」とはご利用者様が明日に希望を持ち生活して頂きたいという思いから名づけさせて頂きました。

ご利用者様の願いや思いを実現する事により心と体が元気になり意欲ある生活を送って頂けるように支援致します。年間行事は、毎月季節を感じて頂きたくご利用者様と相談しながら企画し食べたい物ややりたい事などを取り入れ行っております。

ご利用者様には希望を聞き1日置きに入浴と足浴を行い清潔を保ち身体状況の把握に努めております。

医療との連携を密にしてお心身ともに安心して生活して頂けます

また、ご利用者様と一緒に笑ったり泣いたりしながら寄り添い時にはお互いに助け合いながらご利用者様の大切な時間を共有させて頂き一つの大きな家族になっております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年2月5日	評価機関 評価決定日	令和5年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相鉄いずみ野線「南万騎が原」駅徒歩約10分です。周りは住宅地で建物は木造2階建ての1～2階、2ユニットです。敷地内には同じ運営法人の小規模多機能型居宅介護事業所が隣接しています。

<優れている点>

「我が家」のような環境づくりを日常支援で理念に則り実践しています。入居者の日常生活は生活リズムでは無く、それぞれ本人本位のリズムを基本とし、職員は見守りながらその時を待っています。食事の場では、自宅から持参して貰った箸や器を全員が使用しています。「おなか一杯食べたい!」という食事制限がある入居者の要望に応え、カロリーや糖質の摂り過ぎにならないように「しらたき」をご飯に混ぜて、増量して提供するなど、一人ひとりに寄り添いながら支援しています。また、事業所はコロナ禍にあっても家族や友人との絆を大切にしています。短い時間の面会でも場づくりを工夫したり、電話やショートメールを活用して、関係の維持支援をしています。管理者は職員の良い点を見つけ褒めることや、職場の悩みをそれとなく聞き出して相談に乗ることで、職員の信頼感や安心感に繋げています。

<工夫点>

「個人ファイル」（日常での特別事項の個人別記録）を作成しています。通常は「連絡ノート」（軽微な事項）と「業務記録日誌」記入のみで、特別事項のあった場合は「業務記録日誌」に”個人ファイル参照”と、重複記録を避け、事の軽重を区別しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム あしたば
ユニット名	なごみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員の入職時に管理者がオリエンテーションで理念の説明を行っております。また、毎朝歌のレクリエーション前にご利用者と一緒に理念を読み、共有及び実践に繋げております。	事業所理念は開設時から在職する、現管理者が作成しています。理念を事業所玄関、各事務室など、人目に触れ易く掲示しています。生活リズムで無く利用者リズムで見守り・考え、日々の支援をしています。利用者は明るい笑顔でリビングで寛いでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス流行の為、地域との積極的な交流が難しく、月2回昼・夜に自治会の防犯パトロールに職員が参加しております。またご利用者と一緒に散歩に出掛けた際はご近所の方と挨拶を交わしております。	緑ヶ丘自治会に加入しています。コロナ禍で外出制限の中でも、可能な限りの外出をしています。毎月2回、夜の1時間程、自治会メンバーと共に防犯パトロール活動に参加しています。地域の一員として、犯罪抑止対策の手伝いをしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会の防犯パトロールで同行している自治会会員の方から事業所の特徴や認知症の方への対応等の質問があり、お話をしご理解して頂いております。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス流行の為、運営推進会議は書面にて行っています。メンバーへの意見の集約も書面にて行っています。	コロナ禍により、2ヶ月ごとの書面会議です。開催にあたり、全委員へ、事業所の活動状況報告書と運営推進会議開催報告書を送付して、書面会議としています。地域の防犯パトロール時には町内会メンバーとの会話も地域を知るきっかけとなっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	旭区・泉区・戸塚区のケースワーカーへ申請書をお届けした際やお電話でご利用者の状況報告や必要事項を報告しております。	旭区、泉区、戸塚区のケースワーカーと連絡を取り合っています。健康状態や生活内容などを伝え、新規外来受診時は医療券の発行を依頼し対応してもらっています。グループホーム連絡協議会に参加して新型コロナウイルスに関する情報交換もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束等の適正委員会の開催と身体的拘束等の適正化のための指針をフロアごとに設置して職員が一読出来る環境を提供しています。自己点検シートを活用して職員のケアの姿勢を見直ししております。職員が定期的に研修に参加をして拘束しないケアの理解・認識を深めております。	身体拘束適正化委員会は法人主催で3ヶ月に1度開かれています。事業所が参加できない時は法人記録を基に、事業所で勉強会をしています。全職員が自己点検シートを行い、法人へ提出し、集約結果を検討しています。身体拘束適正化の指針を備えています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止についての研修や勉強会に職員が参加し、理解を深め職員のストレスケアを行い虐待防止に努めています。	高齢者虐待防止の研修は、日常ケア中にもっとも起きやすい事例は「言葉によるもの」と学んでいます。今年度は法人のリモート研修を受講しています。職員のストレスから虐待に繋がらないよう、管理者は折に触れて現場に出て、職員の悩みを掬い取っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用しているご利用者様がおられる為、その都度必要事項について話し合いを行い対応させて頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には総合相談室職員が事業所管理者と一緒に詳細な説明を行い、ご家族様に同意を頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からのご意見やご要望を伺う相談窓口を設置し、必要に応じて相談を頂いております。また重要事項説明書に公的機関の窓口の連絡先を記載しております。	コロナ禍の現状の家族の相談や意見は、メールが主流となっています。窓口を通しての意見などはあまり寄せられませんが、日常ケアに感謝の手紙が寄せられています。コロナ禍の意見は「面会時間を延ばして」「面会を増やして」などです。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やユニット会議を通じて職員の意見や提案を反映できる機会を設けております。	毎月の全体会議と、業務カンファレンスとケアカンファレンスを含んだユニット会議を行っています。月に1回の業務カンファレンスは各種連絡・報告に職員意見の提案の場となります。夕方に多い不穏時のケア対策について、日勤者の勤務時間帯を変更した事例もあります。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が職員と一緒に働くことにより職員の勤務状況や悩みを把握し職場環境の整備に努めています。時には職員と面談を行い職員の精神面をフォローしております。	管理者は介護の場面に努めて出ています。職員の悩みを聞いたり、労働条件の希望も聴き取っています。職員の年齢を考慮し、入浴時対応を2人体制に変更しています。毎年クリスマスに管理者は職員全員に手紙を書き、今年の良かった点、今後への期待を込めた感謝を伝えています。	
13	10	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体で行っている職員研修の参加や勉強会に参加をすることにより職員の介護技術や知識向上に努めております。	研修計画は、外部講師による研修会と、法人内の管理者が内部講師を務める勉強会に分けています。新人から管理者までの階層別プログラムと多彩な内容を整備しています。ADLの変化が大きい人の移動方法の介護技術や、具合が悪くなった急変時の対応の介護知識などを学んでいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡会を通じて他法人の事業所と交流を行っている。法人内では研修や勉強会を通じて他事業所との職員と交流を持ち悩みを相談できる環境を提供しております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前は総合相談室職員が利用に際しての不安や要望等を把握し問題解決の支援を行っております。入居後は管理者や職員がご利用者様の不安や悩み等の課題を把握して解決できるよう対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前は総合相談室職員が利用に際しての不安や要望等を把握し問題解決の支援を行っております。入居後は管理者や職員がご利用者様に対する要望等をお聞きして解決できるよう対応しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時にご利用者様の希望する生活環境をお聞きし、ご家族様と相談しながら支援方法を考えて行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の大先輩であるご利用者様と一緒に笑ったり、時には泣いたりすることでご利用者様と職員が大きな家族としての関係が築けております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々のご様子をご家族様にお伝えし、コロナでの面会制限の中短い時間の面会やオンライン面会、お電話などを使用してコミュニケーションを取っております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス流行に伴い、面会や外出制限があり、直接お会いする事は難しい状況ですが、お電話やお手紙でのご連絡にさせて頂いております。	コロナ禍による面会時には、陽当たりの良い場所の提供や、ガラス越し面会時には、より接近が可能な場所を提供するなど、制限がある中でも安心して繋がるような工夫をしています。「面会時間を延ばして」の家族の要望にはコロナ状況下を理解してもらえようように丁寧な説明を心掛けています。近所の友人からミカンの差し入れがあった時には、ミカンを食べながらその人の会話をすることで、関係が継続するような工夫にも心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	行事やレクリエーションを通じてご利用者様同士で交流を持てるよう支援させて頂いております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホームのサービスが合わず退所されたご利用者様は現在も定期的にお電話やお手紙にて近況報告をさせて頂いております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様のご要望をお聞きしながら、理念にもある「なごめる我が家」のような環境を提供できるように努めております。	「おなか一杯食べたい」という食事制限がある人の要望に応え、「しらたき」をご飯に混ぜるなど、カロリーや糖質を摂り過ぎず、満足が得られるような工夫をして提供しています。日常で使用する茶碗や箸は、長年使い慣れたものを持って来てもらうことで、「我が家」にいるのと同じような環境づくりに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前の事前面接から生活歴や趣味などをお伺いして入所されてからのサービスに役立てております。また入所後にご利用者様やご家族様から情報収集を行い把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活の中で（言動・行動・バイタルサイン等）変動がないかを確認し状態把握に努めております。ケアカンファレンスを通じてお一人お一人に合った過ごし方を職員で話し合い情報共有に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成者が現場に出ている事によりご本人の意向を把握することができ、ご家族ともお電話やお手紙で細目に連絡することにより意見を反映できております。	事業所の管理者と各ユニットの主任が3ヶ月に1回、職員とともにモニタリングを実施して介護計画を作成しています。月に1回、各ユニットごとにケアカンファレンスを行い、入居者の状態に変化があった場合には随時、介護計画の見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を活用して、日々の生活を記録し、ご利用者様の何気ない変化に気付くよう職員間で情報共有を行っております。また、職員が介護計画を把握し実践できるよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームでのサービスが合わないご利用者様とはご家族様を交えて相談を行い、ご本人様が望まれている生活ができるように相談支援をしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	事業所が開所してから新型コロナウイルス感染のリスクから外出や地域の方との関わりが難しいですが、公園へ散歩に行く時などの挨拶や、職員が町内の安全パトロールへ参加することによりあしたばを知って頂いております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医が2名おりご利用者様の身体にあった医師に担当して頂いております。医療連携ノートを活用し往診医と情報共有をしております。	内科、精神科の医師がそれぞれ月に2回ずつ来訪しています。歯科医は毎週1回訪問し、入居者の口腔ケアを行っています。事業所から至近の場所に協力病院があり、職員が通院の同行をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者様の状態の変化等気が付いたことはコミュニティーを活用し訪問看護師と情報共有をしております。急な体調の変化にはすぐに連絡をして相談し指示を頂き支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成し、情報共有しております。入院後は細目に病院と連絡をとり早期に退院できるように支援しております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様とご家族様が分かるように詳しく時間をかけ説明しております。その際医師とも連携をとり医療に関しては詳しい説明をして頂いております。	終末期には、家族が最期の日々を入居者と一緒に過ごせるように、泊まり込みの支援もしています。逝去された人が事業所を後にする際には、職員、入居者が手を合わせて見送っています。職員は、法人が実施する看取り研修を受講しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防訓練の際に消防士立ち合いにて心肺蘇生法やAED使用方法の勉強会を定期的に行いたいですが、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを考え現在はマニュアルを見て学習して頂いております。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防訓練を行い避難の方法などご利用者様と職員が身に付くように行っております。自治会の防災訓練に参加しグループホームで生活しているご利用者様のADLや人数をお伝えし災害時の対応について話し合っております。	避難所は事業所近くの公園、小学校です。入居者の氏名、年齢、身体状況、既往症などを記入し、顔写真入りのフェイスシートを作成しています。災害時に地域住民が避難先で事業所の入居者だと認識し、適切な支援をすることができるよう工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人お一人に合った声のトーンや言葉かけをケアカンファレンスにて共有して対応しております。	声をかける際に、個々の入居者ごとにどのような声色、表現が適切なのか、を職員が試行錯誤をしながら対応しています。その知り得た情報を職員全員で共有しています。職員は自己点検シートを活用して入居者への対応の振り返りを行い、適切な接遇ができるように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の意向を確認し、希望に添えるように対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その時その時のご利用者様の変化に気が付く事ができ今何をしたいのかを都度お伺いしてご自身のペースにて生活をして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身にて選べるご利用者様には洋服を選んで頂き、購入時もお利用者様やご家族様にお好きな色お好きな素材などをお聞きして購入しております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者様の嫌いな物を把握し別メニューで対応しております。簡単な調理や配膳後片付けを職員と話しながら行っております。また、中華レストランと提携をしており配食サービスや外食を利用しております。	トレイに乗せた食事を提供するのではなく、箸、茶碗、器などをテーブルの上に一つひとつ配膳し、我が家の食卓と思ってもらえるように心掛けています。食事は購入済みの食材を確認しながらメニューを決定し、3食職員が手作りしています。	箸や器を一つ一つ配膳するのは手間がかかりますが、家庭的な雰囲気ですぐに食事ができるように、今後も継続されることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	糖尿病のご利用者様へ糖質を抑え満足感ができるように白滝でかさ増しをし提供したり個々に合ったバランスの良いお食事を栄養士の指導のもと提供させて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	あさがお歯科と連携をとり指導のもと毎食後口腔ケアを行って頂いております。その際口腔状態の把握に努めご自身で出来ない事はお手伝いしております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご自身では立位できないご利用者様も定期的にトイレ誘導を行いトイレでの排便を促しております。ご利用者様お一人お一人に合った排泄パターンを理解して支援を行っております。	排泄記録はタブレットで管理しています。入居者ごとに排泄のタイミングを把握し、トイレへ誘導しています。明るく清潔感があるトイレには洗面台が備え付けられ、手洗いしやすい作りとなっています。各ユニットに車いすで入れるトイレがあり、歩行困難な利用者もトイレで排泄ができるよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を促し摂取量を増やしています。毎日オリゴ糖や牛乳を提供し、便秘時には飲むヨーグルトを提供しております。午前午後と体操を行い便秘予防に努めております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は基本1日おきで行っていますがご利用者様の希望に沿い変更しております。時間帯もご相談し決めております。	1階のユニットには機械浴が備え付けられており、2階の入居者も利用しています。入浴は午前または午後の原則週3回ですが、入居者の希望に合わせて臨機応変に対応しています。入浴をしない日には、足浴を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動量を増やし外気浴や散歩に行き日光を浴びています。ホーム内では室温や電気など個々に合わせて対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人のファイルにお薬説明書を入れ変更時には職員が周知できるように個人ファイルへ記入しております。服薬後の変化などご様子は業務日誌やケース記録で細かく記入し申し送りしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様に合ったお手伝いを無理のないように行って頂き役割を持ち生活して頂いております。毎月の行事はご利用者様も企画から参加され楽しみにされております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在コロナウィルス感染リスクがある為外出は行っていませんが天気の良い日は外気浴や散歩に毎日行かれております。	天気の良い日には、事業所玄関脇のベンチで日光浴をする入居者がいます。事業所の周囲は人や車の往来が少ない閑静な住宅地のため、職員と散歩に出かける入居者もいます。コロナ禍以前は、事業所の車で紅葉見物など、外出をしていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在現金をお持ちのご利用者様はいらっしゃいません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者様の希望によりお電話やお手紙でコミュニケーションがとれるように支援しております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月壁の飾りを変え季節を感じて頂いております。共有スペースは清潔を保てるように都度掃除して頂いております。室温などはご利用者様にお聞きし室温調整を行っております。	食事の時間にはテレビを消し、音楽を流し、食事に集中できるように配慮しています。共有スペースに置かれたソファに座って過ごす利用者もいます。壁には入居者の誕生日を祝う言葉を書いた大きな紙を掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間ではそれぞれの落ち着く場所にて過ごして頂き食席など希望を聞きながら変更させて頂いております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前の住まいから家具等を持参して頂き我が家に近づけるように対応しております。家具のレイアウトなどもご自身の希望を聞き都度変更させて頂いております。	昼間は、障害者雇用枠採用の職員が居室の清掃を行っています。夜間は、夜勤が共有スペースと一緒にモップ掛けをして、清潔を保持しています。居室担当が入居者と一緒に衣類などの整理整頓を行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自身でできることを無理なく行って頂き出来ない事はお手伝いしながら生活動作の維持に努めております。		

事業所名	グループホーム あしたば
ユニット名	ひなた

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員の入職時に管理者がオリエンテーションで理念の説明を行っております。また、毎朝歌のレクリエーション前にご利用様と一緒に理念を読み、共有及び実践に繋げております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス流行の為、地域との積極的な交流が難しく、月2回昼・夜に自治会の防犯パトロールに職員が参加しております。またご利用様と一緒に散歩に出掛けた際はご近所の方と挨拶を交わしております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会の防犯パトロールで同行している自治会員の方から事業所の特徴や認知症の方への対応等の質問があり、お話をしご理解して頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス流行の為、運営推進会議は書面にて行っています。メンバーへの意見の集約も書面にて行っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	旭区・泉区・戸塚区のケースワーカーへ申請書をお届けした際やお電話でご利用様の状況報告や必要事項を報告しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束等の適正委員会の開催と身体的拘束等の適正化のための指針をフロアごとに設置して職員が一読出来る環境を提供しています。自己点検シートを活用して職員のケアの姿勢を見直ししております。職員が定期的に研修に参加をして拘束しないケアの理解・認識を深めております。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止についての研修や勉強会に職員が参加し、理解を深め職員のストレスケアを行い虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用しているご利用者様がおられる為、その都度必要事項について話し合いを行い対応させて頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には総合相談室職員が事業所管理者と一緒に詳細な説明を行い、ご家族様に同意を頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様からのご意見やご要望を伺う相談窓口を設置し、必要に応じて相談を頂いております。また重要事項説明書に公的機関の窓口の連絡先を記載しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やユニット会議を通じて職員の意見や提案を反映できる機会を設けております。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が職員と一緒に働くことにより職員の勤務状況や悩みを把握し職場環境の整備に努めています。時には職員と面談を行い職員の精神面をフォローしております。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体で行っている職員研修の参加や勉強会に参加をすることにより職員の介護技術や知識向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会を通じて他法人の事業所と交流を行っている。法人内では研修や勉強会を通じて他事業所との職員と交流を持ち悩みを相談できる環境を提供しております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前は総合相談室職員が利用に際しての不安や要望等を把握し問題解決の支援を行っております。入居後は管理者や職員がご利用者様の不安や悩み等の課題を把握して解決できるよう対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前は総合相談室職員が利用に際しての不安や要望等を把握し問題解決の支援を行っております。入居後は管理者や職員がご利用者様に対する要望等をお聞きして解決できるよう対応しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時にご利用者様の希望する生活環境をお聞きし、ご家族様と相談しながら支援方法を考えて行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の大先輩であるご利用者様と一緒に笑ったり、時には泣いたりすることでご利用者様と職員が大きな家族としての関係が築けております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々のご様子をご家族様にお伝えし、コロナでの面会制限の中短い時間の面会やオンライン面会、お電話などを使用してコミュニケーションを取っております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス流行に伴い、面会や外出制限があり、直接お会いする事は難しい状況ですが、お電話やお手紙でのご連絡にさせて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	行事やレクリエーションを通じてご利用者様同士で交流を持てるよう支援させて頂いております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホームのサービスが合わず退所されたご利用者様は現在も定期的にお電話やお手紙にて近況報告をさせて頂いております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様のご要望をお聞きしながら、理念にもある「なごめる我が家」のような環境を提供できるように努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前の事前面接から生活歴や趣味などをお伺いして入所されてからのサービスに役立てております。また入所後もご利用者様やご家族様から情報収集を行い把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活の中で（言動・行動・バイタルサイン等）変動がないかを確認し状態把握に努めております。ケアカンファレンスを通じてお一人お一人に合った過ごし方を職員で話し合い情報共有に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成者が現場に出ている事によりご本人の意向を把握することができ、ご家族ともお電話やお手紙で細目に連絡することにより意見を反映できております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録を活用して、日々の生活を記録し、ご利用者様の何気ない変化に気付くよう職員間で情報共有を行っております。また、職員が介護計画を把握し実践できるよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームでのサービスが合わないご利用者様とはご家族様を交えて相談を行い、ご本人様が望まれている生活ができるように相談支援をしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	事業所が開所してから新型コロナウイルス感染のリスクから外出や地域の方との関わりが難しいですが、公園へ散歩に行く時などの挨拶や、職員が町内の安全パトロールへ参加することによりあしたばを知って頂いております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医が2名おりご利用者様の身体にあった医師に担当して頂いております。医療連携ノートを活用し往診医と情報共有をしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者様の状態の変化等気が付いたことはコミュニティーを活用し訪問看護師と情報共有をしております。急な体調の変化にはすぐに連絡をして相談し指示を頂き支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成し、情報共有しております。入院後は細目に病院と連絡をとり早期に退院できるように支援しております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様とご家族様が分かるように詳しく時間をかけ説明しております。その際医師とも連携をとり医療に関しては詳しい説明をして頂いております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防訓練の際に消防士立ち合いにて心肺蘇生法やAED使用方法の勉強会を定期的に行いたいですが、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを考え現在はマニュアルを見て学習して頂いております。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防訓練を行い避難の方法などご利用者様と職員が身に付くように行っております。自治会の防災訓練に参加しグループホームで生活しているご利用者様のADLや人数をお伝えし災害時の対応について話し合っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人お一人に合った声のトーンや言葉かけをケアカンファレンスにて共有して対応しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の意向を確認し、希望に添えるように対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その時その時のご利用者様の変化に気が付く事ができ今何をしたいのかを都度お伺いしてご自身のペースにて生活をして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身にて選べるご利用者様には洋服を選んで頂き、購入時もお利用者様やご家族様にお好きな色お好きな素材などをお聞きして購入しております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者様の嫌いな物を把握し別メニューで対応しております。簡単な調理や配膳後片付けを職員と話しながら行っております。また、中華レストランと提携をしており配食サービスや外食を利用しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	糖尿病のご利用者様へ糖質を抑え満足感ができるように白滝でかさ増しをし提供したり個々に合ったバランスの良いお食事を栄養士の指導のもと提供させて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	あさがお歯科と連携をとり指導のもと毎食後口腔ケアを行って頂いております。その際口腔状態の把握に努めご自身で出来ない事はお手伝いしております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご自身では立位できないご利用者様も定期的にトイレ誘導を行いトイレでの排便を促しております。ご利用者様お一人お一人に合った排泄パターンを理解して支援を行っております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を促し摂取量を増やしています。毎日オリゴ糖や牛乳を提供し、便秘時には飲むヨーグルトを提供しております。午前午後と体操を行い便秘予防に努めております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は基本1日おきで行っていますがご利用者様の希望に沿い変更しております。時間帯もご相談し決めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動量を増やし外気浴や散歩に行き日光を浴びています。ホーム内では室温や電気など個々に合わせて対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人のファイルにお薬説明書を入れ変更時には職員が周知できるように個人ファイルへ記入しております。服薬後の変化などご様子は業務日誌やケース記録で細かく記入し申し送りしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様に合ったお手伝いを無理のないように行って頂き役割を持ち生活して頂いております。毎月の行事はご利用者様も企画から参加され楽しみにされております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在コロナウイルス感染リスクがある為外出は行っていませんが天気の良い日は外気浴や散歩に毎日行かれております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在現金をお持ちのご利用者様はいらっしゃいません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者様の希望によりお電話やお手紙でコミュニケーションがとれるように支援しております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月壁の飾りを変え季節を感じて頂いております。共有スペースは清潔を保てるように都度掃除して頂いております。室温などはご利用者様にお聞きし室温調整を行っております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間ではそれぞれの落ち着く場所にて過ごして頂き食席など希望を聞きながら変更させて頂いております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前の住まいから家具等を持参して頂き我が家に近づけるように対応しております。家具のレイアウトなどもご自身の希望を聞き都度変更させて頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自身でできることを無理なく行って頂き出来ない事はお手伝いしながら生活動作の維持に努めております。		

2022年度

事業所名 グループホーム あしたば

作成日： 5年 4月 2日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	アイシマの理念とあしたばの理念の統一がされていないので分かりにくい	全職員がアイシマの理念とあしたばの理念を深く理解して頂く。	全職員とあしたばの理念の見直し	6ヶ月
2	49	外出機会の減少	コロナ感染に注意し外出の機会を増やす。	コロナの感染者数など考えご家族様との外出など可能な限り支援する。 外出できる行事を増やす。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月